

平成29年度 北九州市地方独立行政法人評価委員会（第1回）議事要旨

- 1 開催日時：平成29年6月23日（金） 10：00～11：50
- 2 開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A
- 3 議事内容
 - (1) 総務局長 挨拶
 - (2) 評価委員 自己紹介
 - (3) 委員長の選出及び職務代理者の指名
委員長として衛藤委員が選出され、職務代理者に安浦委員を指名
 - (4) 今年度の評価委員会スケジュールについて
 - (5) 北九州市立大学学長との意見交換
 - ア. 松尾学長より第2期中期計画等に係る主な取組みについての説明
 - イ. アに対する質疑応答
 - (委員) 地元企業への就職率はどれくらいか。
(大学) 20%程度。目標としては、プラス10%くらいである。
30%程度の学生が地元就職を希望しているが、意外と地元企業を知らないで、マッチングがうまくいくよう、各種取組を進めている。
 - (委員) 大学院の定員充足率について。
 - ① 北方キャンパスでは、数値が伸びていない。むしろ落ちているが、今後どのような取組を行うのか。
 - ② ひびきのキャンパスでは、特に博士後期がすばらしい数値だが、どのような取組を行ったのか。

(委員) 財務に関して、平成 26 年度から 3 年間、目的積立金を取り崩して経費に充てている。この傾向は今後も続くのか。

(大学) 市からの運営費交付金が減っているが、色々な取組みを継続的に行いたいと考えている。ある事業目的に対して、目的積立金で実施していくという形をとっているので、近年取り崩しが続いているが、今後検討していかなければならないと思っている。

(委員) 目的積立金については、目的に合致した事業に使っているという理解でよいか。

(大学) 特定の目的に使っている。比較的事業を明確化できるので、切り分けをしっかりと行っている。

(委員) 取り崩さなければならなくなったのは、様々な事業を積極的に行っているからか。

(大学) それもある。また、市からの運営費交付金が減ったということもある。また、第 2 期中期計画では施設整備、研究の充実ということで、環境技術研究所などを建設し、建設費の一部に充てたという事情もある。

(委員) 授業料収入等と運営費交付金を合わせるとほぼ一定額になっているが、相関関係があるのか。収入があれば、運営費交付金を減らすという市の方針があるのか。

(市所管局・大学) そのような方針・基準はない。

(委員) インターンシップ以外で、学生が職業観を学ぶカリキュラムはどういったものがあるのか。

(大学) 大学案内 28p にあるカリキュラム一覧のキャリア科目など。また、同 101p に具体的に記載されているとおり。

(委員) 地元就職率の質問の際に、学生が地元企業を知らないということを挙げていたが、企業を知るというカリキュラムを入れているのか。

(大学) 実際に企業の方に来てもらって話をさせていただく地域科目を設けている。また、科目という形ではないが、COC+に採択された「北九州・下関まなびとぴあ」の取組みがある。例えば、しごと ZINE プロジェクトでは、学生が地元企業にインタビューして、ひとつの冊子にまとめている。また、北九州の業界マップも学生が各種業界を調査し、作成した。地元就職に関心のある学生がプロジェクトを通じて地元企業への理解を深めている。

(委員) 学長として、大学の課題や問題点は何かあるか。

(大学) まず、大学院の定員充足率を満たしていないこと。次に、18 歳人口の減少や国の入試制度が変わることについて、どのように取り組んでいくかということ。そして、経営資源の戦略的な配分についても検討、改善していかなければならない。

(6) 平成28年度財務諸表及び剰余金の繰越について

ア. 大学事務局から財務諸表について説明

イ. 市所管局（企画調整局）より「市の考え方」について説明

ウ. 質疑応答

（委員）大学は資産運用ができるのか。

（大学）可能だが、金利が非常に低いうえ、わずかな額なので、安全性を考慮し、今のところ行っていない。

（委員）退職金について、適正かどうかの評価はどうしているのか。規定はあるのか。

（大学）市の規定に準じ、定年退職の手当率を適用している。額については、監査法人がチェックしている。

（委員）退職金は、業績を反映していないのか。

（大学）業績に応じた措置はない。

※意見書としては「意見なし」として決定することで合意